

## 私の提言 大森常三郎

My Opinion on Swan Research : Tsunesaburo Ohmori

日本白鳥の会が誕生して、はやくも8年(S48~56)。

白鳥を中心として、親睦と情報の交流を図り、また最も大きなテーマとして定時定点観測を行なうことによって日本に於ける白鳥類の全貌を知ろうと今日迄努力を続けてきた。

さて、その成果?というところ集計表には空欄が目立ち、ために合計もできず、信頼できる数字がでてこない。

このことについては近年環境庁が行なっている「ガン、カモ類の一斉調査」で一応数字としては纏めてはいるが、正鵠を得たものであるか、という私の現地でみる限り疑問とすることが多々あるが、国内の状況を知るには之に依存するの他はない。

そこで日本白鳥の会で行なっている定時定点観測は、ハクチョウ類に限られた単一種属について専門に調査するのであるから会員の積極的な協力と新進気鋭の青年層の会員獲得によって一層の充実が望まれる。

これに関連することで、北海道の山内昇氏は、クッチャロ湖、ポロ沼を通過するコハクチョウの数が、内地で越冬した数と、余りにも差がありすぎると指摘されているが、これも一応肯定されることではあるが、「世界のコハクチョウの分布図」により流動状態を考按するに、そこを通過するすべてが日本内地で越冬するもののみとは考えられず、このことは朝鮮半島、中国を含めた地域の実態を知ることによって解明されるものと信じ、両国夫々IWRBシムボジウム札幌で知った要人に対し手紙を書いたが韓国は数字を、中国はノーコメント、この上はIWRB太平洋委員会の活動により、アジア極東地域の分布状態を知るより他はないものと思われる。韓国の概数は1980年のIWRBシムボジウム、報告書の中で把握できた。

さきに私は「お尋ねしますコハクチョウという名について」(日本白鳥の会々報No.5所載)の一文を書いたが、仙台の横田先生、当時環境庁鳥獣保護課堀内技官より御懇切なる教示を賜ったが私の最も疑問としていた、ヨーロッパコハクチョウとアジアコハクチョウは本当に全く違う亜種であるかどうかについて納得できない部分を貼していた。

そこへ偶々IWRB日本委員会創設のため来日されたIWRB会長マシューズ博士に会う機会を当時副会長であった松井繁先生によって与えられた。そこで前記の二亜種の相違点について質問した。

これに対して“この二つの間には相違することはなく同じものようである。また嘴の巾、嘴峰の斑紋(ビルパターン)についても何等根拠がないことである”とのお答えを得た。

ついで1980年催されたIWRB札幌総会エクスカージョン中、千歳空港で名誉会長ピーター・スコット卿にも同様の質問をしたが、マシューズ会長と同様の答えをされた。

ここに於いて私は、従来二つの亜種として呼称されてきたヨーロッパ、アジアコハクチョウを改める。当然ヤナ川を境界とする二つを分ける呼びかたも消滅してゆくものと思われる。

また夫々の鳥学者ががつけた学名についても同様に統一された学名に改められるべきであろう。

## 参考資料

## 1. 日本に渡来したコハクチョウ過去10年間の記録.

1970年	542羽	1975年	1,745羽
1971年	846羽	1976年	2,539羽
1972年	934羽	1977年	2,248羽
1973年	1,689羽	1978年	1,986羽
1974年	1,226羽	1979年	2,550羽

## 2. 1978-80, 日本に渡来したコハクチョウの府県別羽数.

府県名	1979	1980	府県名	1979	1980
北海道	0	30	岐阜	6	4
青森	0	12	愛知	3	1
宮城	169	390	京都	0	2
秋田	401	31	兵庫	1	1
山形	16	0	和歌山	0	12
福島	892	930	鳥取	63	2
群馬	15	20	島根	574	246
埼玉	10	0	福岡	1	0
新潟	392	491	鹿児島	1	0
長野	6	28	計	2,550	2,200

1、2の調査羽数は環境庁の行なったガン、カモ類一斉調査報告書より収録

3. 大韓民国には1980年江陵で約600羽越冬した。これは今迄に見ない数倍の異状増加である（於札幌、情報聴取）。

4. ヨーロッパ北西部に渡来したコハクチョウの数。

1967年-5880羽、1968年4930羽（アイルランドを除く）（ソ連に於けるコハクチョウの現状より）。

文献によると上記地域の総数はいづれも6000~7000羽としている。その内訳概数は、オランダ3000 英国および付近の諸島で2000、デンマーク700 西独逸300（The Swansより）。

5. 最近コハクチョウの数は減少している。最近タイミールだけでも繁殖個体数は7分の1~10分の1に減少している（ソ連に於けるコハクチョウの現状より）。

本稿は1982年2月の本会研修会にて参加者に配布した。

（〒969-31 福島県耶麻郡猪苗代町新町）